

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第9号

精神科看護師の批判的思考態度を促進するためのリフレクションを用いた教育プログラムの開発 -統合失調症患者の身体症状の判断に焦点をあてて-

(Development of an education program based on reflection aimed at promoting psychiatric nurses' attitude toward critical thinking -Focusing on the determination of the physical symptoms of patients with schizophrenia-)

池内 彰子 (いけうち しょうこ)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

本論文は、精神科看護師が、統合失調症患者の身体症状を批判的思考に基づき正確に判断するために、教育的な介入を試みその効果を検証した先駆的な研究である。予備研究として、精神科看護師の批判的思考態度の関連因子に関する自記式質問紙調査が行われ、教育プログラムで焦点を当てる因子が明確化された。解析結果を基に作製された教育プログラムは、統合失調症患者の身体症状を判断した場面をリフレクションする内容である。リフレクションにおける分析の視点は、予備研究で批判的思考態度の関連因子として明らかにされた看護師の倫理的感受性に焦点をあて、患者の捉え方の偏りに気づき、自分の思考を内省する内容とされた。介入は身体科臨床経験のない精神科臨床経験が5年未満の看護師23名を対象とし、介入前・直後と1ヶ月後に批判的思考態度尺度・一般性自己効力感尺度(以下、GSES)を測定する調査が実施され、介入1か月後に10名を対象に半構造化インタビューが行われた。介入直後、1ヶ月後ともに、批判的思考態度尺度下位尺度「懐疑的態度」が有意に上昇し、批判的思考の内省力の促進が示された。また、GSES下位尺度「行動の積極性」が有意に上昇し、物事に対する能動的な変化がみられた。このことは、半構造化インタビューの結果、コアカテゴリー《リフレクションによる変化》が形成されたことで裏づけられた。1ヶ月後には「行動の積極性」が有意に低減した。教育プログラムにより懐疑的に思考する能力の促進が認められ、批判的思考態度の促進に一定の効果が認められた。一方で、物事に対する能動的な変化の継続性は確認できず、教育プログラムによる継続的な介入の必要性が示唆された。今後も本プログラムの検討やエビデンスを積み重ねることを期待し、看護学研究の発展に寄与する論文と判断した。よって、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと判定した。